

# 建設・企業常任委員会県外調査報告書

平成29年8月21日（月）～23日（水）

## 1 調査の概要

- (1) 調査箇所 JR金沢駅及びその周辺、金沢市末浄水場、富山県立富岩運河環水公園及びライトレールトランジット、及びみなとオアシス七尾 能登食祭市場
- (2) 出席委員 守屋委員長、高橋(延)副委員長、石川(巧)、芥川、八木、桐生、久保寺、米村、浦道、早稲田、藤井(深)、北井の各委員
- (3) 調査日 平成29年8月21日(月) から 23日(水) まで

## 2 JR金沢駅及びその周辺

### (1) 調査目的

JR金沢駅及びその周辺では、平成27年3月の北陸新幹線の延伸(長野駅—金沢駅の開業)を見据えた区画整理事業が行われ、交通結節点の機能強化が図られた。また、路線バスを中心とした公共交通機関の活用により、新幹線を利用した観光客の増加に対応するとともに、金沢市集約都市形成計画を策定し、コンパクトシティを目指した取組を引き続き推進している。

本県でも、寒川町倉見地区及び平塚市大神地区において、東海道新幹線の新駅建設を中心とした、環境共生モデル都市「ツインシティ」を計画し、その整備を推進していることから、JR金沢駅及びその周辺地区の取組について調査することにより、今後の委員会審査の参考に資する。

### (2) 主な説明事項

#### ア 都市計画に基づく金沢駅東広場の整備

金沢市は、個性を大切にし、魅力を磨き高めることで、人・モノ・情報を引きつけ、同時に発信していくことによって成長、発展していく「交流拠点都市」を目指しており、その一環として、金沢駅東広場の整備を行った。

金沢駅東広場には、「伝統の広場」「歩行者優先型広場」を基本構想とし、金沢らしさや出会い、にぎわいの創出、交通結節点としての合理性と機能性の追及などの整備方針の下、金沢の伝統を凝縮した鼓門や、もてなしの心、思いやりのシンボルであるもてなしドームなどが整備された。

#### イ 交通によるまちづくりの実現に向けた第2次金沢交通戦略の策定

金沢市では、歩行者と公共交通を優先するという従来の考え方に、まちなかを核に、ネットワークで周辺地域とつながるといった新たな考えを取り入れたまちづくりを目指した、第2次金沢交通戦略の策定し、まちづくりに取り組んでいる。

第2次金沢交通戦略では、交通ネットワークの再構築、交通機能の連携強化、広域・圏域交通による交流の推進などの5つの基本方針を立て、過度に車に依

存しない交通体系、安心して楽しく回遊できるまちなかを目指している。

(3) 主な質疑応答

質疑は視察中に随時行われた。



(4) 調査結果

J R 金沢駅及びその周辺では、北陸新幹線の延伸に伴う金沢駅への乗入れなどの機会を捉え、駅東口広場の整備と、併せて、交通によるまちづくりに取り組んできた。

以上のように、J R 金沢駅及びその周辺のまちづくりの取組を調査したことにより、本県の今後の施策を推進する上で、参考に資することができた。

### 3 金沢市末浄水場

#### (1) 調査目的

金沢市企業庁末浄水場は、昭和7年に完成した浄水場で、現在も開設当初のろ過池などが使用されており、昭和60年に近代水道百選に選ばれるとともに、平成13年には沈殿池やろ過池などが登録有形文化財に登録されている。さらに、同浄水場内の庭園は、噴水などに開設当初の近代的な造園技術が用いられていることから、平成22年に、水道施設として初めて国指定名勝となった。

また、同浄水場は、小水力発電にも積極的に取り組んでおり、平成13年度に策定された「金沢市新エネルギービジョン」のモデルプロジェクトとして、平成24年度にインライン型水車発電機を導入し、浄水場で利用する電力の35%を供給している。

本県でも、再生可能エネルギーの活用が検討・推進されており、中でも、安定的に電力を供給でき、低コストで導入できる小水力発電の取組を推進していることから、同浄水場の取組を調査することにより、今後の委員会審査の参考に資する。

#### (2) 主な説明事項

金沢市では、豊かな自然環境を保全するため、未利用エネルギーを活用し、環境負荷を軽減するため、平成24年2月から、同市末浄水場において小水力発電を行っている。

同浄水場における小水力発電には、インライン型の永久磁石型同期発電機が使用され、発電出力は42キロワットパーアワー、年間約360,000キロワットパーアワー(一般家庭約100軒分)を発電し、その全てを当浄水場で消費することで、当浄水場の年間電力消費量の35%を賄い、年間電気料金の約400万円、年間二酸化炭素排出量の約165トン削減している。

#### (3) 主な質疑応答

**質 疑** 災害やテロに対して、どのような対策を行っているのか。

**応 答** これまで、特別な対策は行ってこなかった。

しかし、テロについては、昨今の状況から、柵を設けるなどの対策も考えているが、当浄水場は国の特別名勝に指定されており、市民に開放された施設としていることから、柵ではなく植込みを設けるとともに、職員による監視などを行っている。

国の特別名勝に指定されている事情から、文部科学省からは施設の開放が推奨される一方、厚生労働省からは人の立入りを制限すべきであるとの方針が示され、相反することを求められているように感じている。

**質 疑** 再生可能エネルギーの分野について、先ほど説明のあった、汚泥

から発生するメタンガスの活用について、もう少し詳しく説明してもらいたい。

**応 答** 汚泥から発生するメタンガスの活用は、金沢市内の3つの下水処理場で取組を進めている。

汚泥は、体積を減らすため、30日間滞留させるが、その際に出る消化ガスであるメタンガスが、LNGに類似していることを発見し、酸化水素を除いて、下水処理場の発電に利用することにしたのが始まりである。

このメタンガスによって、処理場の年間使用電力の約14%、約14万キロワットの電力を賄っている。

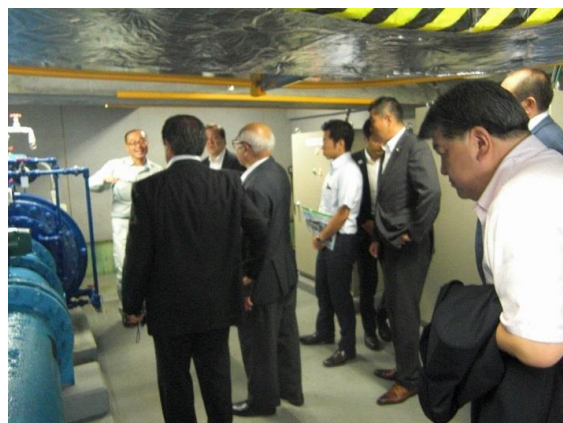
また、全国でも3箇所で行っていない取組として、このメタンガスにプロパンを加えて強化し、都市ガスとして供給している。年間の売上げは3千万円程度である。

**質 疑** 本県でも課題となっているが、配水管の更新作業について、現在の進捗状況を聞かせてもらいたい。

**応 答** 配水管の老朽化対策の進捗率は、約84.6%となっている。

現在、主要交差点の配水管に、漏水に備えたセンサーの設置も併せて行っている。

(※ 上記以外の質疑は、施設見学中に随時行われた。)



#### (4) 調査結果

金沢市末浄水場は、小水力発電を行い、未利用エネルギーを活用することで、場内で利用する電力の約35%を賄い、二酸化炭素の排出量を年間約165トン削減し、環境負荷を軽減し、豊かな自然環境の保全に寄与している。また、費用面においても、小水力発電による電力を利用することによって、電力料金を年間約400万円削減している。

以上のように、金沢市末浄水場における小水力発電の導入・活用の取組を調査したことにより、本県の今後の施策を推進する上で、参考に資することができた。

## 4 富山県立富岩運河環水公園及びライトレールトランジット

### (1) 調査目的

#### ア 富山県立富岩運河環水公園

富山県立富岩運河環水公園は、富山駅北地区の新都市拠点整備事業である「とやま都市MIRAI計画」に基づき建設された都市公園である。同公園は、街の発展に貢献した富岩運河を中心に整備され、園内には、国の重要文化財に指定されている中島閘門などの歴史的な建造物や、水のカーテンと湧泉で構成される泉と滝の広場、公園のシンボルとなっている天門橋などがあり、日本の歴史公園100選に選ばれるとともに、平成25年には、第29回都市公園コンクールの最高賞である、国土交通大臣賞を受賞している。

また、同園では季節ごとのライトアップが行われ、園内には、世界一美しいとされるスターボックスや、有名なフレンチシェフ監修のレストランなどがあり、県の内外から多くの来園者を集めている。

本県においても、都市公園の整備に取り組むとともに、開園後の活用を検討していることから、同園の取組を調査することにより、今後の委員会審査の参考に資する。

#### イ ライトレールトランジット

ライトレールトランジット(以下、「L R T」とする。)とは、国土交通省の定義で、次世代型路面電車システムと訳され、低床式車両の活用や軌道・電停の改良による乗降の容易性、定時制、速達性、快適性などの面で優れた特徴を有する次世代の軌道系交通システムである。

同システムの整備効果の一つとして、魅力ある都市と地域の再生が挙げられ、L R Tの導入を契機として道路空間の再構築や、トランジットモールの導入などにより、中心市街地の活性化や、都市と地域の魅力の向上が期待されるとされ、富山市においても、コンパクトシティを基本とした市街地再開発において導入されたものである。

本県でも、寒川町倉見地区及び平塚市大神地区において、東海道新幹線の新駅建設を中心とした、環境共生モデル都市「ツインシティ」を計画し、その整備を推進していることから、富山市におけるL R T導入の取組について調査することにより、今後の委員会審査の参考に資する。

### (2) 主な説明事項

#### ア 富山県立富岩運河環水公園

富山市内を流れる富岩運河は、市内の大半が浸水した明治32年に発生した神通川の大洪水を契機に整備が開始され、昭和5年から、富岩運河の建設を含む3つの都市計画事業が行われ、昭和10年に完成された。

その後、同運河が、周辺地域の開発や埋立て事業などにより、同運河周辺が

荒廃したことから、昭和59年に富岩運河保存再生方針が表明され、神通川21世紀水公園プラン、建設省の新都市拠点整備事業に基づく、とやま都市M I R A I 計画などの計画に基づき、富岩運河と一体となった、都市の水辺空間を生かした公園として、富山県立富岩運河環水公園が整備された。

#### イ ライトレールトランジット

富山市内では、車を自由に使えない市民が極めて生活しづらく、都心の空洞化によって、都市全体の活力が低下するとともに、都市の魅力が喪失し、他方、都市管理に係る行政コストが割高になるという課題が生じていたことから、鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に住居、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現するため、ライトレールトランジットを導入した。

同市のライトレールトランジットでは、利便性及び快適性の向上のため、制振軌道やI Cカードの採用、低床車両の導入、増便、始発・終電時間の改善といった運行サービスの向上が図られている。

### (3) 主な質疑応答

#### ア 富山県立富岩運河環水公園

質 疑 当公園の整備費を教えてください。

応 答 国の補助金を含めて、約120億円である。内訳は、用地が約50億円、整備費が約70億円となっている。

質 疑 稼げる公園、儲かる公園という考え方が注目されているが、公園の有効活用という点について、スターバックスの存在は、大きな役割を担っていると感じるが、スターバックスが公園内にできた経緯を教えてください。

応 答 当時の知事から、「投資するなら、もっと効果的に」という発言があったことが一つの契機となっている。

当時から園内には、バードサンクチュアリなどの施設はあったが、飲食店はなく、園内への出店を公募したところ、スターバックスが手を挙げた。

許可の期間は、平成13年から10年間となっていたが、その後、変更され、20年間とされている。近年、法律の改正で、基本的な許可期間が10年間から20年間に改正されたが、その動きよりも先に、本県では20年間の許可とした。

また、公園の維持・経営ということを考えて場合、テナントによる周辺整備という点も重要で、テナントには、その周辺の整備も許可しており、むしろ、これにより、使用範囲の芝生の整備な



- ども、テナントの力を借りている現状がある。
- 質疑 飲食店の出店を公募したとのことだが、その時点でコーヒーショップに絞り込んで公募したのか。
- 応答 その当時、すでに市内には複数のスターバックスが出店していたが、タウン誌の記事などに、スターバックスを増やしてほしいという要望が寄せられており、そういった声が後押しになったのは事実である。
- そういった声を受け、スターバックスにも出店について打診した上で、それを念頭に公募を行った。
- 質疑 当公園は、指定管理者制度を導入しているが、現在の指定管理者は、公園を整備してから設立したものか。
- 応答 現在の指定管理者は、平成18年に設立されたものだが、その時点では公園の整備は行われていなかった。
- 平成23年に、公園が全面完成し、その年の7月から指定管理者となっている。年間の指定管理料は、約4千万円である。
- 質疑 園内の他のレストランなどは、どのような位置付けなのか。
- 応答 県が設置許可を行っており、1平方メートルあたりの使用料が決められており、使用する広さによって賃料が決まってくる。また、レストランなどの施設は、公園施設の一部として位置付けられている。
- 質疑 スターバックスの賃料はどの程度か。
- 応答 この場では、スターバックスの使用面積が分からないので、全体額はお答えできないが、使用料の単価はほかのレストランなどと同様で、1平方メートル当たり、1日20円である。この単価は、いくら使用者が儲かっていたとしても、条例を変更しなければ、個別に変えることはできない。
- 質疑 これを機に、儲かる公園を目指してはいかがか。
- 応答 儲かるのであれば、ほかにも整備しないのかという議論になる。
- 質疑 スターバックスの設置費用はどの程度か。
- 応答 民間企業の情報なので、こちらでは把握していない。
- 質疑 説明にあった運河クルーズは、公園の開園前から予定されていたものか。
- 応答 平成21年度から開始されたものである。
- 質疑 公園は、富岩運河を通じて、北側にある岩瀬浜など日本海に通じているが、それらの施設と、にぎわい創出のための連携は図られているか。

応 答 観光客には、路面電車であるライトレールトランジット、LRTも人気がある。

LRTは、平成18年に富山駅の立体化工事を行う際に導入されたものだが、その沿線にある、昔の北前船の船着場を、国のまちづくり交付金を活用して整備したことで、一体的な観光スポットとなっている。

イ ライトレールトランジット

質 疑 コンパクトシティを目指すということは、住まいを中心部に集めるということだと思うが、どのような政策効果があったのか教えてもらいたい。

応 答 人口を誘導するということで、中心市街地と新地区もそうだが、駅やバス停など主要な都市機能の周辺といったところにも、居住を誘導しているところである。

都市マスタープランを策定した際に、富山市全体の、公共交通の沿線の比較的便利なところに住む方の割合の目標を設定した。目標は、市民全体の45%と設定した。

つまり、この目標が達成されても、市民全体の5割程度の方は、依然として公共交通が不便なところに居住し続けるということで、ある意味、現実的な目標と考えている。

目標を設定した平成17年時点では28%という状況で、現在は32%まで上昇しており、緩やかだが事業の効果が表れていると考えている。

質 疑 基本的には既存の線路のあったところにライトレールトランジットを敷設するというので、富山駅の北側の富山港線の一部の部分に新しいレールをつくり、また、南側の市内電車環状線化事業によって、道路だったところに新たに線路を敷いて、ライトレールトランジットを走らせているということによいか。

応 答 そのとおりである。

質 疑 路面電車が走っているところで車を運転したことがないので分からないのだが、交通ルールなどの面で、市民が不安に感じていることはないのだろうか。

応 答 中心市街地に来ると、交通量なども多くなってくるが、元々路面電車が走っていたこともあり、交通上の懸念というのは想定していなかったが、実際に路面電車と自動車の接触事故も発生しており、富山地鉄から聞き取ったところによると、年間25件程度、特に交差点での事故が多く、右折待ちをされていて、対向車がなく

なったので右折しようとしたところ、後ろから来た路面電車に接触したというような事例を聞いている。

特に統計をとったわけではないが、ライトレールトランジットを導入する前から、同程度の事故が発生していたと聞いており、特にライトレールトランジットの導入によって大きな混乱があったとは認識していない。

質疑 ライトレールトランジットのメリットの一つは、定時制だと思うが、利用者は列車の駅の到着時刻を確認して、その時間に合わせて駅に行くというような利用の仕方をしているのか。

応答 ライトレールトランジットでも、朝夕のラッシュ時、中心市街地部分では多少遅延する場合もある。鉄道区間や平日の日中は、そのようなことはないが、元々ライトレールトランジットのダイヤは、5分から10分間隔となっているので、利用者に大きな不便をかけることはないものと考えている。

ライトレールトランジットの軌道の一部では、現在、複線化工事を行っており、工事が完了すれば、ダイヤの乱れも少なくなるものと思われる。

質疑 ライトレールトランジットによる事業ではないかもしれないけれども、富山の街は、駅を中心に放射状につくられていると聞いたが、その放射状に合わせて、環状線のような交通網を整備するという考えはあるか。

応答 富山市としての大きな事業目標の中には、そういった考えが含まれているが、富山地鉄の鉄道区間に、ライトレールトランジットを乗り入れることができるか、可能性を確認しているところである。

現在、ライトレールトランジットの南側の終点は富山軌道線の南富山駅で、この先は鉄道路線となっているが、ここに乗り入れができないか検討を行っている。これが実現すれば、海側から山側までライトレールトランジット一本で、乗換えなしで行けるようになる。

(※ 上記以外の質疑は、施設見学中に随時行われた。)



#### (4) 調査結果

富山県立富岩運河環水公園は、歴史的な遺構を生かしながら整備されており、県民の憩いの場として広く親しまれるとともに、スターバックスのような利用者に魅力的なテナントを招くことによって、県外からも来園者を集める、観光スポットの一つとして賑わいをみせている。

また、富山市内を走るライトレールトランジットは、それまで自動車に頼りがちであった市内の交通事情を改善するとともに、鉄道路線を整理・改善することで、まちづくりそのものにも大きく貢献している。

以上のように、富山県立富岩運河環水公園の整備に関する取組及び富山市内におけるライトレールトランジット導入の取組を調査したことにより、本県の今後の施策を推進する上で、参考に資することができた。

## 5 みなとオアシス七尾 能登食祭市場

### (1) 調査目的

みなとオアシス七尾 能登食祭市場は、周辺地域の観光客を七尾市に呼び込むことを目的に設置された、常設の大型観光施設であり、平成 15 年度に国土交通省が管轄する「みなとオアシス」に登録されている。

同施設は、運営主体として設立された第三セクターである、(株)香島津によって運営されており、七尾港で水揚げされた海産物などが販売される店舗やレストラン、イベント広場があり、週末などには様々なイベントが開催され、七尾市の観光の中核を担うとともに、地域住民の交流拠点となっている。

本県にも、葉山、湘南、大磯、真鶴の 4 つの港があり、その活用方法が検討されていることから、同施設の取組を調査することにより、今後の委員会審査の参考に資する。

### (2) 主な説明事項

能登食祭市場は、道路網や鉄道網の整備により、物流の中心が海上交通から陸上交通に転換される中、地元の有志による活動を経て、能登活性化のシンボルとして整備されたもので、アメリカ合衆国のモンレーの取組を参考にジャズフェスティバルを開催するなど、積極的に地域振興策に取り組み、平成19年には、国土交通省によるみなとオアシスに認定され、続いて21年には、同省による道の駅に認定されるに至り、県内外、広くは海外からも来場者を集めている。

施設内には、鮮魚や水産加工品を中心に販売する能登生鮮市場や、能登の名産品や輪島塗などを販売する里山里海百貨店 里乃蔵、浜焼きコーナーなど和食・洋食・喫茶の店舗が入る能登グルメ館などがあり、地場産業の振興、雇用の拡大、雇用の場の創出、特産品を生かした地場製品の開発促進、インフラ整備の推進といった整備効果を生んでいる。

### (3) 主な質疑応答

質 疑 近海の水揚量や種類を伺いたい。

応 答 能登から富山湾にかけては、かきなどの貝や海草などの海産物資源も豊富で、七尾の場合、水揚品の 8 割が氷見ぶりである。

富山湾周辺には、日本一の大型定置網が設置されており、その水揚量は年間30億円規模となっている。

質 疑 こちらで水揚げされた氷見ぶりは、東京の築地にも出荷されているのか。

応 答 七尾には公設の市場は一箇所しかないが、築地とも取引がある。

特に、12月から1月にかけては、寒ぶりの時期で、8キログラム以上のものが寒ぶりとされるが、一尾で平均20万円以上の値が付く。

質 疑 黒字経営を維持していくためには、集客が重要かと思うが、当施

設を訪れる観光客は、和倉温泉からの客が多いのか。また、どのような集客策を行っているのか。

応 答 和倉温泉からの観光客は、以前は3分の1程度を占めていたが、近年は4分の1程度となっている。また、集客策として、以前は、和倉温泉の旅館などに依頼し、施設のパンフレットを置かせてもらったりしていたが、現在は特別な集客策は行っていない。

当施設の訪問客の構成比は、県内客が40%、石川県からの方が20%、関東や関西、その他の国内地域からの方が各10%、その他外国からの方が10%となっている。また、ドライブの途中で立寄るといった訪問理由が多く、近年は外国人観光客のインバウンドによる訪問も増えている。

直営している浜焼きのコーナーは、土日には順番待ちが発生する程で、開設当初は、テナントが埋まらない苦肉の策で始めたものだったが、現在では大きな収入源となっている。

また、利用交通機関は、飛行機よりも新幹線を利用する方が増加している。地域的な事情だが、のと里山空港の運営維持には、65%以上の稼働率が必要なため、空港を維持するためにも、なるべく飛行機も利用してもらいたいと望んでいる。

(※ 上記以外の質疑は、施設見学中に随時行われた。)



#### (4) 調査結果

みなとオアシス七尾 能登食祭市場では、前述のような取組によって、黒字経営を達成、維持し、物流方法や交通手段の転換によって活力を失いつつあった七尾市において、地場産業の振興に一役を担うとともに、雇用の確保、拡大に寄与している。

以上のように、みなとオアシス七尾 能登食祭市場における地域活性化の取組を調査したことにより、本県の今後の施策を推進する上で、参考に資することができた。

〈参 考〉

- 1 随行者 大谷主任主事(議会局議事課)  
堀田主幹(県土整備局総務室)  
早野主幹(企業庁財務部財務課)
  
- 2 調査箇所側出席者
  - (1) J R 金沢駅及びその周辺  
金沢市議会議長、副議長、都市政策局交通政策部交通政策課課長補佐、  
土木局道路管理課金沢駅前イベント広場運営センター課長補佐、  
都市整備局都市計画課都市拠点整備係長、  
都市政策局交通政策部交通政策課主査
  - (2) 金沢市末浄水場  
金沢市企業局施設部長、上水・発電課課長補佐、浄水管理係長
  - (3) 富山県立富岩運河環水公園及びライトレールトランジット  
富山県土木部都市計画課長、区画整理・公園係長、同主任、  
富山市議会事務局長、都市整備部路面電車推進課主任
  - (4) みなとオアシス七尾 能登食祭市場  
七尾市産業部次長、産業振興課課長補佐、(株)香島津常務取締役